

あなたの心は 一人だけですか？

人の多面性から多重人格まで

福島 淳 イラスト・福島麻衣子

宮崎勤事件における多重人格性、ベストセラーの 24人のピリー・ミリガン ……。
今や、多重人格は別世界の物語ではなくなった。しかし、我々の心にも、
多重人格ならぬ多面性は存在するのである。



多重人格とは文字どおり、いくつもの人格が一人の人に交代して出現することを言う。場合によっては、いくつかの人格が同時に存在することもあると言われる。しかも、統合を失った、分離したそれぞれの人格は、別々の思考や感情、記憶を持つ。つまり、しぐさや服装、筆跡まで全く異なった人格たちが、一人の人間の中に誕生するのだ。もちろん、これは紛れもなく病気であるが、健康な人間にも、日常生活に多面性という形で、色々な自分が存在する。そこには様々な矛盾がうずまいて、立場が変われば意見も変わるといえるのは、よくある話には違いない。

例えば、人は生活していく上で、状況や相手によって接する態度が変わる事がある。自分より目上の人物には、気に入られるようと齒の浮くようなお世辞を言つて媚びる人間が、その一方で、目下と判断した相手には人が変わったかのようにぞんざいな態度をとったりする場合。これはむしろ、日常的に見られることで、特別な例というわけではないだろう。意識して態度を変えているわけではないが、相手によって、知らず知らず別人のように振る舞つてしまつ傾向は誰にでもあるのだ。自分は、誰に対しても公平にふるまっている。相手によつて口口口態度を変えたりしない、などと思つていても、実際は自分の都合で変わつてくるのである。

もちろんそれは、社会的に充分適応しており、変人、奇人と言われていない人での話だ。

例えば、身近な親子関係で考えてみよ

う。親から見れば、子供はいくつになつても子供である。母親は、たとえ息子が成人し、いい年をしたオヤジになつても、いつまでも 自分の子供 という意識からは離れられない。もしもこの母親が心配性だとすると、よかれと思つて世話をやく干渉が、第3者の目には、異様な親子関係に映る場合もある。息子の方も、いい年をして乳離れできていない姿はふがいない。しかし母親から見れば、嫁より誰より、自分の言うことをよく聞く息子はかわいいのである。ではこの母親が、嫁の立場だつた場合を考えると、もしも夫が、いつも自分より姑を優先し、嫁姑関係でトラブルが発生しても、必ず母親側についてしまつたらどうするか。そんな夫に、妻としては孤独を感じないだろうか。親の反対を押し切つても、一緒になつてくれるくらいは夫こそ、嫁から見れば最高だと言えよう。

言いかえれば、彼氏や夫がマザコンであるのはいやだが、母親になつた時、自分の息子には少しマザコンでいて欲しかったりするのが本音なのだ。もちろん、建前はマザコンでは困ると思つているのがミソ。もつと言いかえると、夫が自分の言いなりであるのは良いが、息子が嫁の言いなりであるのは許せなかつたりする。

このように、それぞれの人間関係の中で、人は多種多様な面を見せ、立場が変われば意見も変わり、一人の人間にも正反對の矛盾が生まれる。これは人間の多面性として理解するべき点だと思つ。しかし恐ろしいことに、自分の中に生まれる数々の矛盾に気がつく人は、なかなかいない。

